

【シンポジウム】

魅力ある技師認定制度の確立を目指して

松田健太郎

医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院

【要約】

我が国において、高気圧酸素治療に関する認定看護師や専門看護師といった制度は確立されておらず、高気圧酸素治療に携わる看護師が取得できる認定資格は、関連学会である JSHUM または JACHOD が認定する技師認定制度のみである。技師認定制度は看護に特化した資格でない上に、診療報酬上でも有利に働くものはない。そのため現在の資格制度では、決して看護師が魅力を感じるのものとは言えない。しかし、既に米国においては、高気圧酸素治療に携わる看護師の認定制度が確立されており、専門医、専門技師と共に専門看護師が協力し、高気圧酸素治療が行われている。この度、国内の高気圧酸素治療における中心的役割を果たしてきた両学会の合併をきっかけに、資格制度そのものが見直され、看護師にとって魅力のある資格制度となる事、そして、高気圧酸素治療の発展と共に看護師の更なる活躍の場となることを期待する。

キーワード

高気圧酸素治療, 専門看護師, 認定看護師, 専門技師, 資格制度

【Symposium】

Aiming to establish an attractive certification system for hyperbaric oxygen therapy technicians

Kentaro Matsuda

Jyutokukai Uegahara Hospital

Keywords

hyperbaric oxygen therapy : HBO, certified nurse specialist, certified nurse, certified technician, qualification system

【はじめに】

高気圧酸素治療 (hyperbaric oxygen therapy : HBO) における認定技師制度として現在、日本高気圧環境・潜水医学会 (The Japanese Society of Hyperbaric and Undersea Medicine : JSHUM) の高気圧酸素治療専門技師、日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 (Japanese Association for Clinical Hyperbaric Oxygen and Diving Medicine : JACHOD) の臨床高気圧酸素治療装置操作技師、そして職能団体である日本臨床工学技士会 (Japan Association for Clinical Engineers : JACE) の高気圧酸素治療

専門技士、3種が存在する。今後の技師認定制度のあり方について、看護師として取得可能な高気圧酸素治療専門技師および臨床高気圧酸素治療装置操作技師の資格を持ち、実際に HBO 業務に携わる看護師として看護業界における資格制度のあり方を鑑み、検討したい。

【専門看護師と認定看護師】

看護師が自身のキャリアアップのために取得を目指す資格としては、国家資格や公的資格、民間資格、公益社団法人 (公社) 日本看護協会の認定

資格などさまざまなものがある。なかでも多くの看護師が取得を目指すものとして、(公社)日本看護協会が認定制度を統括する専門看護師や認定看護師、認定看護管理者がある。ここでは、専門看護師と認定看護師について概要を記す。専門看護師と認定看護師は、その違いが分かりにくく正しく理解され難い。しかし、その役割や取得のための難易度は大きく違っている。

専門看護師は現在13の専門看護分野(表1)があり、看護師として5年以上(うち専門分野3年以上)の実践経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得した後に、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格である(図1)。審査合格後は専門看護師としての活動と自己研鑽の実績を重ね、5年ごとに資格を更新するものである(表2)。その活動内容は患者・家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する力と

広い視野を持って、専門看護分野の専門性を発揮しながら専門看護師の6つの役割『実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究』を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めるものである¹⁾。

それに対して、認定看護師はA課程21分野(2026年度をもって養成終了)とB課程19分野(2020年度より、特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育(表3)があり、看護師として5年以上(うち認定分野3年以上)の実践経験を持ち、(公社)日本看護協会が定める600時間以上(B課程は800時間程度)の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格である(図1)。審査合格後は認定看護師としての活動と自己研鑽の実績を積み、5年ごとに資格を更新するものである(表2)。その活動内容は患者・家族によりよい看護を提供できるよう、認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら認

表1. 専門看護師13分野2020年1月現在

専門看護師 (13分野)				
(1) がん看護	(2) 精神看護	(3) 地域看護	(4) 老人看護	(5) 小児看護
(6) 母性看護	(7) 慢性疾患看護	(8) 急性・重症患者看護	(9) 感染症看護	
(10) 家族支援	(11) 在宅看護	(12) 遺伝看護	(13) 災害看護	

※新たに放射線看護が加わり2023年9月現在では14分野

(公社)日本看護協会ホームページ(<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cns/index.html>)を参考に作成。

専門看護師・認定看護師の資格取得条件

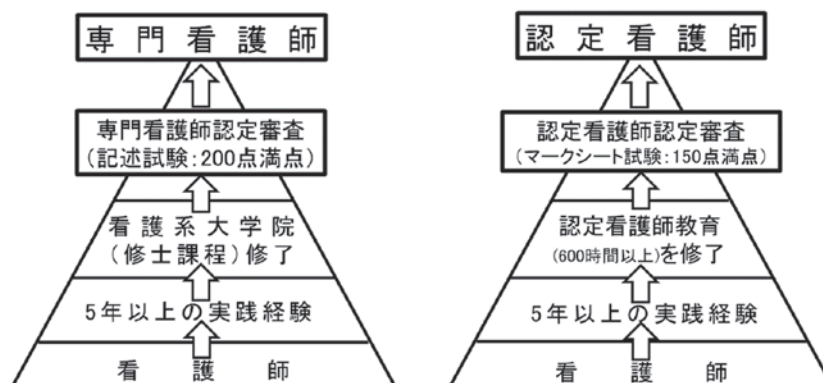


図1: 専門看護師・認定看護師の資格取得条件

表 2. 専門看護師・認定看護師の資格更新条件

	専門看護師	認定看護師
更新時期	5年毎に更新審査に合格	5年毎に更新審査に合格
更新条件	過去5年間の実績	過去5年間の実績
看護実践時間	2,000時間以上	2,000時間以上
研修実績及び研究実績等	100ポイント以上	50ポイント以上

専門看護師の6つの役割：実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究

認定看護師の3つの役割：実践・指導・相談

(公社)日本看護協会ホームページ (<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cn/index.html>) および (<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cns/index.html>) を参考に作成。

表 3. 認定看護師 A 課程 21 分野 (2020 年 1 月現在, ※ 2026 年をもって養成終了)

認定看護師の特定看護分野 (A課程21分野 B課程19分野)

A課程	がん化学療法看護	がん性疼痛看護	がん放射線療法看護	感染管理	緩和ケア	救急看護
	集中ケア	手術看護	小児救急看護	新生児集中ケア	摂食・嚥下障害看護	透析看護
	糖尿病看護	乳がん看護	認知症看護	脳卒中 リハビリテーション看護	皮膚・排泄ケア	不妊症看護
	訪問看護	慢性呼吸器疾患看護	慢性心不全看護			
B課程	感染管理	がん放射線療法看護	がん薬物療法看護	緩和ケア	クリティカルケア	呼吸器疾患看護
	在宅ケア	手術看護	小児プライマリケア	新生児集中ケア	心不全看護	腎不全看護
	生殖看護	摂食嚥下障害看護	糖尿病看護	乳がん看護	認知症看護	脳卒中看護
	皮膚・排泄ケア					

※ A 課程の 21 分野が統合や名称の変更が行われ, B 課程 19 分野として 2020 年より養成開始

(公社)日本看護協会ホームページ (<https://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/vision/cn/index.html>) を参考に作成。

定看護師の3つの役割『実践・指導・相談』を果たし、看護の質の向上に努めるものである²⁾。

【考察】

看護師にとって魅力を感じる資格³⁾は、単に自己研鑽に留まらず、昇進や昇給につながり、転職や再就職の際に有利に働くものが多い。それらは、病院にとっても施設基準にかかわり、診療報酬にも影響する。例えば、感染対策向上加算1の施設基準において求める看護師の「感染管理に係る適切な研修」として、下記3つの教育課程がある。

1. (公社)日本看護協会の認定看護師教育課程「感染管理」
2. (公社)日本看護協会が認定している看護系

大学院の「感染症看護」の専門看護師教育課程

3. 東京医療保健大学感染制御学教育研究センターが行っている感染症防止対策に係る6か月研修「感染制御実践看護学講座」

以上があり、それぞれを感染症専門看護師や感染管理認定看護師、感染制御実践看護師と呼ぶ。しかし、残念なことにHBOを行う上では、関係学会より留意事項が示されており、これらの事項を十分参考とすべきとされているが、資格取得者を従事させることは明記されていない。また、資格取得者が従事していたとしても診療報酬上の加算はない。安全の担保や知識向上といった観点からいえば、現在の資格制度は一定の役割を果たして

いる。学会が定める「高気圧酸素治療の安全基準」において、第20条では装置を使用しようとする医療機関は、高気圧酸素専門技師（以下「専門技師」という）を常勤させなければならないと記載されているが、資格取得者が従事していない施設も多く存在している。そのため、昇進や昇給、診療報酬における施設基準といった観点からは資格制度がもたらす恩恵はまだ小さいと推測する。

次に、転職や再就職といった点からも、看護師にとって HBO 関連の資格を取得していることが有利に働くとは考えにくい。その理由として、HBO 実施施設が限られており看護業界における認知度が低いことである。そのため、HBO を受ける患者やその家族に対して、看護の力が必要となる場面があることを知らない看護師が多い。その上、取得の難易度には多少の差があるものの、認定団体の違いによる資格が3つも存在しており、それぞれの活動内容に明確な違いはなく、看護師にとって魅力を感じるものではない⁴⁾。

看護師の場合、JSHUM および JACHOD 両学会の資格を取得することが可能である。JACHOD の制度は学会会員であることが義務付けられておらず、容易に取得可能であり、裾野を広げるという意味では有効かもしれない。その反面、JSHUM の制度は、学会会員であることを義務づけている等、JACHOD の制度に比べ多少難易度は上がる。安全の担保という視点では両学会の資格は一定の役割を果たしている。しかし、専門看護師制度や認定看護師制度と比較した場合、エキスパートの資格制度としてはまだ発展途上だと考える。

【結語】

国内における高気圧酸素治療の更なる発展のためには、両学会が手を組み一つになることは大変喜ばしいことである。その際には是非とも資格制度の抜本的な改革を行っていただきたい。両学会

の統一に合わせ、資格制度を統一するだけに留まらず、看護師のように認定と専門の2つに分けるなどの工夫や、資格制度の意義や目的・役割などを明確に示していただきたい。そして、更新制度も現在の単位制に留めるのではなく、それぞれの目的や役割に応じて難易度を上げるなどの見直しを行い、資格制度そのものの位置づけを高めていただきたい。その上で、HBO 実施における有資格者の配置を必須条件化とし、診療報酬上の優遇措置などの対応が実現する事を期待する。また、職能団体である JACE の資格制度については、両学会の資格制度とは一線をおき、HBO のプロフェッショナルとして臨床工学技士の更なる地位向上のために位置する事が望まれる。

学会として臨床面だけでなく、総合的な観点から教育・研究・後進の育成などを目的に、臨床工学技士・看護師それぞれが魅力を感じる資格制度の確立を望む。

本論文の発表に関して開示すべき COI はありません。

参考文献

- 1) (公社) 日本看護協会 認定部 (公社) 日本看護協会ホームページ リーフレット「専門看護師ってどんな看護師？」2023。
https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/leaflet_CNS2023-9.pdf
- 2) (公社) 日本看護協会 認定部 (公社) 日本看護協会ホームページ リーフレット「認定看護師ってどんな看護師？」2020。
https://www.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2020/09/leaflet_CN2020_1.pdf
- 3) 大坪陽子, 雑賀智也: 看護師のためのキャリアナビ (ナースのためのスキルアップノート特別編). 東京: 秀和システム. 2021; pp. 1-36.
- 4) 松田健太郎: 高気圧酸素治療における看護の役割. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016; 51: 308.